

教科	学年科目	集計結果の分析	来年度に向けての課題
国語	1 現代の国語	前期と比べ全ての項目においてポイントが向上した。生徒が学習方法を身につけ、実践したと考えられる。	授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感できるよう、生徒の意欲を高めていく工夫が必要である。
	1 言語文化	授業の充実感や達成感が多少増しても、結局の所「点数」に反映されないもどかしさが見て取れる。	生徒が目的意識を持って授業にのぞめるように課題を提示しながら、復習と応用に努めたい。
	2 論理国語	問題演習の時間を増やした結果、身についたことは実感できるようになっている。	限られた時間の中で教材に取り組ませることをこれまで以上に計画的に行わなければならない。また生徒の実態に合った教材の精選をすすめる。
	2 文学国語	多くの項目で前期よりも向上が見られた。後期に入り、生徒の学習に対する関心・意欲の高まりがあったためと思われる。	生徒自身が主体的に考え、理解を深めるような授業のあり方を模索していきたい。
	2 古典探究	既習事項に関連づけて理解できるようになっただけでなく、活用できると実感することもできたと思われる。	今年度の生徒の様子をふまえ、生徒たち自身で問題意識をもって取り組めるようにしたい。
	3 論理国語(文系)	前期よりもポイントが向上した項目が多く、生徒の実感が高まる関りが増えたと考えられる。	生徒主体の取組みを継続的に考えていく必要がある。
	3 論理国語(理系)	全体的に肯定的な回答が増えた。特に、他者の考えを知り、自分の考えを広げ深める機会があるという項目が高い評価を得た。グループ活動等を積極的に取り入れた結果だと考えられる。	来年度も単元のねらいを明確にしながら、グループ活動等の取組みを積極的に取り入れる。
	3 古典探究	各項目において前期よりもポイントの向上が見られた。課題解決に向けて既習事項を活用する活動を増やした結果だと考えられる。	情報処理については生徒の実感を高めることができなかった一方で、教材からもう一步踏み出し自らの考えを深め広げる項目に関しては実感の低さが見て取れた。新たな考え方を知り現代と古典社会を結びつける活動を取り入れる際、より一層の工夫が必要である。

地歴公民

1	歴史総合	各項目において概ね良好な評価を得た。しかし、前期に比べて学習内容が複雑になり難化しているせいか、「授業の中で身に付いたことや、出来るようになったことを実感できた」と感じる生徒が前期に比べて減少している。	授業内での発問や課題レポート等で知識の定着をはかり、生徒の「できた！」を実感できるような工夫をしていきたい。
1	公共	全体的に良好な評価だった。特に既習事項との関連付けにおいて、前期よりも評価が向上した。一方、他者と考えを知り、考えを深められたと感じる生徒は減少している。	「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」の項目が他と比べて低いので、振り返りを行うことで、変化を実感できるようにしたい。
2	地理総合	単元のねらい、振り返りの機会については前期より評価の数値が向上したが、他者の考えを知る項目の評価が下がった。課題についてまとめたり、解決方法について考える場面の項目においては、前期同様概ね良好な評価であった。	学びの目的を明確にすること、振り返りの時間を設けることで、より生徒の学びの質を向上させたい。また、オープンクエスチョンなどでクラスの生徒一人ひとりがどのように考えているのかを共有する時間を設けるなど、他者の考えを知り、肯定的に受け入れる雰囲気を作っていきたい。
2	日本史探究	概ね良好な評価であった。特に単元の中で課題について自身の考えをまとめる、それまでに学んだことと関連付けて理解ができた2項目は高い評価であった。ただし、既習事項との関連性の項目においては若干数値が下がってしまった。	他者の考えを知る項目が他に比べやや低い評価のため、ペアワークなどを取り入れるなどの工夫をしていきたい。
2	世界史探究	既習事項との関連付けについて、他より数値が高い。様々な地域を扱う中でもできていることから、生徒の世界史に関する興味関心が高いことが要因と考えられる。	授業の中で他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある項目が他と比べて低い。様々な資料から見方・考え方を広げる機会を作りたい。
3	日本史探究・精選α	受験勉強が本格化する中で、各質問項目の回答結果が前期から大きく変化していないため、進路に関わらず授業に対して前向きに取り組んでいることが分かる。	できるようになったことを実感する項目については、単元を学習する中で自身の学習について振り返りを行い、学習前と比較にて自身にどのような変化があったのかを可視化できる活動を取り入れ、評価にも反映できるようにしたい。
3	世界史探究・精選α	各質問項目の評価が前期と比べて少し向上した。生徒間での取り組みへの差はありながらも、授業内においては他者と意見を共有して、既習事項とのかかわりを感じながら流れを意識した姿勢を育ませることができたと考えられる。	各国の歴史を年代別で整理しながら、その関係性を考えるには十分な時間を確保できなかったが、生徒自身が主体的に学習に取り組むことができる環境を形成して、学びを深めることができる展開を目指したい。
3	地理探究	全体的に良好な評価だった。特に自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面において、前期よりも評価が向上した。一方、既習事項との関連づけができたと感じる生徒は減少している。	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することについてが比較的评价が低かったため、既習事項を踏まえて授業を展開するように工夫していきたい。
3	日本史精選β	前期と比較し、評価は概ね向上している。生徒間による話し合いの機会をより多く設けることや、前時までに扱った内容との相互理解を図ったためこのような評価になったのではないかと考えられる。	年間を通して評価を安定させるため、生徒が主体的に学べるような授業展開を心がける。単元などの長いくりの中で授業展開を作成し、見直しをもった計画をおこなう。
3	世界史精選β	各質問項目での評価が向上した。後期は授業の展開を早め、演習も取り入れながら授業を展開したが、これまでの知識の定着を再確認し、できることとできないことを把握することで学びが調整されたと考えられる。	演習をもっと増やすことで、特に一般入試を受験する生徒のニーズに応えられるような単元や地域を選ぶことができるようよいと感じた。通史学習を早めて展開するように行っていきたい。
3	政治経済	他者の考えを知ることや自らの考えを深めることができた生徒が多かった印象である。日常生活や社会生活により関係する政治・経済を学習することでその本質を理解できたと考えられる。	授業内容が日々の実生活に関連していることが多いので、生徒の持つ「社会」と一般的な「社会」を関連させることで、より深い理解や考察ができるようになると考え、そうした取り組みを実践していきたい。

数学

1	数学Ⅰ・A	全ての項目が前期よりも高くなっていた。数学が苦手であった生徒が基礎学力が定着し、達成感が上がったと考える。	より多くの生徒が基礎力を高め、主体的に取り組めるような授業づくりを心がけていきたい。
2	数学Ⅱ	全ての項目が前期よりも高くなっていた。特にできるようになったことを実感する項目が高くなっていることから、前期よりも生徒の興味関心意欲を引き出すことができたと考えられる。	前期のうちから自主的に考えを共有する機会を設け、生徒に興味をもたせ理解を深めるように努める。
2	数学B	おおむね良好な結果であったが、特に既習事項との関連付けをさらにできるようにする必要がある。	他者と意見を共有する機会を前期のうちから多く設け、自主的に理解を深められるように努める。
3	数学Ⅲ	入試問題に取り組んだため、ねらいや振り返りの項目が低くなってしまった。	入試問題ごとにねらいや目標を設定し、授業の初めに確認するようにすることで、ゴールを明確にする。
3	数学ⅠⅡ	おおむね良好な結果であったが、自らの考えを広げ深める機会をどう増やしていくか、さらなる工夫が必要である。	自らの考えを、新たな視点で見つめ直すことができるよう、他者の考えを知る機会を増やすなど、授業展開を工夫する。
3	数学C	後期は入試問題に取り組む時間が多く、「ねらいや振り返り」「自らの考えを広げ深める」項目が低かった。	計画的に入試問題に取り組む、ヒントなどを駆使しながら、自らの考えを広げ、深める時間を確保できるように取り組む。
3	応用数学(B群)	全ての項目が前期よりも高くなっていた。特に既習事項との関連付け、できるようになったことの実感等の項目が高かった。	問題を単元ごとに分けることで、授業ごとのねらいをより明確にする。また、1回の授業で扱う問題数を調整し、他者と意見を共有し合う時間を設ける。

## 理科

1	物理基礎	前期よりもポイントが低下している部分があった。より発展的な内容になったこと、難易度の高い取り組みをしたことが原因であると考えられる。	難解な内容であってもいかに身近な事象と結び付け考えさせられるかを重点において取り組んでいきたい。
1	化学基礎	全項目で平均値が上昇していた。特に、前期で評価の低かった「自らの考えを広げ深める機会がある」については、実験を行い、その結果について考える機会が増えたことが原因ではないかと考えられる。	引き続き、各単元の中で実験やグループワークを積極的に取り入れ、生徒自身が考える時間を設けていきたい。
2	物理基礎	前回よりも得点の上昇がみられた。生徒もペースがつかめ、授業への取り組みやすさが改善されたことが原因であると考えられる。	より発展的な内容であっても生徒が主体的に取り組めるような授業づくりを心がけていきたい。
2	化学基礎	他者の考えを知り、自らの考えを広げ機会が少なかったために自らの考えを広げ深めることができなかった。	グループ学習やペアワークを増やすことで他者の考えを知り、自らの考えを広げ機会を多くしていきたい。
2	生物基礎	前期同様、授業への取り組みは大変よいが理解度が少し下がっている。自分の考えをまとめたり、他者の考えを知り自分の考えを深める機会が少なかった。	単元ごとに振り返りの時間を設定し、クイズ式の小テストなどを行っていきたい。グループワークなどで意見を交換する機会を増やしていきたい。
3	物理	前期から得点の変化はほとんどなかった。生徒たちは進路が決定したかどうかに関わらず授業に前向きに参加しようとしていたと考えられる。	生徒が主体となって取り組めるような授業展開をを継続的に考えていきたい。
3	化学	前期同様、授業への取り組みは大変よく、仲間と協力しながら演習問題に取り組み理解を深めている。後期は入試に関連する問題に取り組む時間と実験の機会を設け、生徒が学んだことや目の前の事象をもとに考察したり、結果をまとめたりする活動を増やした結果、生徒もそのように実感していることが結果にも表れていた。	演習時間・生徒の活動の時間の確保に一層努めると共に、視聴覚教材の充実により、困難な状況下であっても実験や考察の機会を設けることができるようにする。
3	生物	授業への取り組みはよく、概ね授業の内容を理解し、深めることができている。後期は、他者の考えを聞いて自分の考えを広めることや、解決方法を考える機会を設けたが、評価結果にはあまり現れなかった。	引き続き、復習や振り返りを含めた学習習慣の定着を促していきたい。また、学んだことを活用して問題解決を行う機会を増やしていきたい。

保健 体育	1	体育	他者の考えを知り、自らの考えを広げるという項目の評価が低くなった。	実技を指導する中でも教え合いや学び合いが活性化されるような授業展開を意識しなければならない。
	1	保健	指導方法の項目で、「既習事項と関連付けて理解する」が少々低くなっている。	授業の中で、身に付いたことを実生活でも生かせるようにするには、どうしたら良いかを考える時間を、体育科として取り入れていきたい。
	2	体育	前期に引き続き、「授業の中で身についたことやできるようになったことを実感することができた」の項目が高くなっている。	自分の考えをまとめたり、解決方法について考える活動を増やしていきたい。
	2	保健	授業の在り方について「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める」の項目が減少している。	ICTなどを用いて他者の考えに多く触れる機会を作っていきたい。
	3	体育	「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の項目が増加している。	学年が上がってもできることが増えることを実感している生徒も多いので、今後も授業の中で技能の向上を目指していきたい。
芸術	1	音楽Ⅰ	後期のは、前期に学んだ基本的な事項を応用し、表現活動の実践を中心行った。考えや視野を深め、広められた一方、内容が進むにつれ、技術的な難しさを実感した生徒もいるようだ。	基本的な事項の、小テストやワークを頻回に行いフィードバックし易いように工夫したい。表現活動についても、振り返りシート等を活用し、取り組みの目標が明確になるように意識づけたい。
	1	美術Ⅰ	前期と比べほぼ全ての項目で評価が上がっていることから、前期よりも落ち着いて意欲的に学習に取り組めたようである。	単元ごとのアンケートや興味のあることなどについて教科独自に調査を行い、取り扱う内容の再検討をする。
	3	素描(B群)	全ての項目において良好な評価が得られた。生徒主体で学び合い、経験や能力を高める場が作られていた。	今後も生徒主体で学びが深まるよう課題や制作環境を工夫する。
英語	1	英語コミュニケーションⅠ	前期に引続き単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会を多く設けることができたと考える。その一方で、身につけた知識を使えるようにできた実感できた生徒はまだ少ないと分析する。	ペーパーテストだけではなく、パフォーマンステストの計画的な実施によって、生徒の思考力・判断力・表現力を高めると共に、より多くの生徒が達成感を実感できるよう学習支援を図る必要があると考える。
	1	論理表現Ⅰ	多くの生徒が各単元で身につけるべき目標を理解しているようだが、英文法や語法の知識を定着させるにとどまり、発話語彙を増やそうと練習する機会が少ないと分析する。	表現活動の時間を通して、生徒が語意だけではなく、語法の活用に注目して発話練習をすることで、生徒の英語運用能力を高める必要があると考える。
	2	英語コミュニケーションⅡ	①最も高かったのは3.24で、「単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の項目であった。②最も低かったのは2.97で、「毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある」の項目であった。	①の理由としては、授業内で行ったディベートのなかで生徒自身が自分の意見を論理的にまとめ、他者に伝え合うという活動を行ったことが挙げられる。これからも生徒が英語を使って他者とコミュニケーションを取るような表現活動を授業に取り入れたい。②の理由としては、Lessonごとに4技能の観点別学習目標を事前に生徒に示し、終了後に到達度を生徒とともに確認することが不十分であったと考える。今後はその2つを徹底して行いたい。
	2	論理表現Ⅱ	概ねすべての項目で前期と同様の傾向を示している。その中で最も上昇率が高かったのは、「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」であり、最も下落率が高かったのは「単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある」であった。	引き続き、単元のはじめに学習のねらいを示すとともに単元ごとに学習内容のふりかえりを行う等、より一層の工夫をしていく必要がある。
	3	英語コミュニケーションⅢ	多くの項目において前期よりさらに高い評価を得た。特に、できるようになったことを実感している生徒が多かった。生徒が3年間積み重ねてきた結果である。	次年度も、課題に向き合い考える時間や、他者とやりとりをし考えを広め深める時間などを、年間を通じてバランス良く計画し、様々な活動を通して生徒の力を引き出していきたい。
	3	論理表現Ⅲ	各項目ともよい評価のものが多く、特に「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会」の項目が高い評価を得ている。授業中に解答や考えを共有する機会を意識的に設けているためと考えられる。	授業の狙いや振り返りとできるようになった実感の項目の評価が比較的低く、改善の余地がある。授業の最初に本時の目標を生徒に明確に伝え、授業内容の振り返りの時間を設けることで改善していきたい。
家庭	2	家庭基礎	前期と異なる分野に入り、実技的な内容も増えたことで、より主体的に取り組む生徒が増え、各項目ともポイントが上がっている	次年度も、体験的学習の機会を増やせるよう、学習内容を精選していく。
情報	2	情報Ⅰ	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会が減ったと感じる生徒が増えた。個人で考え解決する課題が多くなったことが原因と考えられる。	個人で考え導き出した解答や意見を共有していく機会を増やしていきたい。